

1-6 英文学

研究・教育活動の概要と特色

[研究活動]

英文学研究室は、初代教授土居光知以来、歴史主義的な方法論を基盤とする研究を行ってきた。英文学の領域は 8 世紀頃から現代にまで至る広大なものであるが、当研究室がカバーしているのは、主として 16 世紀のイギリス・ルネサンス期から現代に至るまでの近代英文学である。ジャンルとしては、詩、演劇、18 世紀以降の小説を主として研究してきている。これらを文学史、テーマ史、思想史の中で捉えようとするのが、研究室の伝統となっている歴史主義的な研究である。そこでは一次資料の厳密なテキスト分析に根拠を置くことを第一の原則としており、さらに個々のテキストを歴史的視野の中で位置づけることにより、客観性を高めることに留意している。

一方、1960 年代以来の英米の批評理論の展開についても十分に意識しており、その優れた部分を柔軟に取り入れつつ、新たな研究方法の開拓にも取り組んできている。近年はポストコロニアリズム批評・新歴史主義批評に基づいた研究も行われているが、テキスト分析を重視することにおいては一貫している。

[教育活動]

一学年 10 名を定員とする学部教育においては、英文学の古典に親しみ、同時に英語読解能力を涵養することを目的とした教育が行われている。具体的には 3 年次学生に対して、大学院生が指導者となって英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が実施されている。また、卒業研究として、3・4 年次に 10 冊の原書を数回に分けて読み、それに関する試験を行い、最終的に論文を提出するという形式の「アサインメント」が行われている。これはすでに半世紀以上の続く伝統的な教育方法である。大学院前期課程においては、高等学校教員をめざす大学院生が増加していることも踏まえて、英語読解能力をさらに高めるための授業を中心にしている。大学院後期課程においては、さらなる英語読解能力の向上とともに英作文能力と論文構成力の訓練に重点を置いている。

I 組織

1 教員数 (2015 年 5 月 20 日現在)

教授 : 1

准教授 : 2

教授：大河内昌

准教授：岩田美喜

准教授：ジェイムズ・ティンク

2 在学生数（2015年5月20日現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
32	1	5	5	0

3 修了生・卒業生数（2010～2014年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
10	12	3	0
11	9	0	0
12	10	3	0
13	9	5	0
14	8	3	0
計	48	14	0

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2010～2014年度）

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	1	0	1
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
14	0	0	0
計	2	0	2

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

福士航、2010年度、“Performing “Other” Identities on the Restoration Stage”

審査委員：教授・大河内昌(主査)、教授・金子義明、准教授・岩田美喜
准教授・ジェイムズ・ティンク

鈴木淳、2012年度、“The Demise of Imperial Myths: Race, Sexuality and Emigration in the Works of Collins, Hardy and the New Woman Writers”

審査委員：教授・大河内昌(主査)、教授・今井勉、准教授・岩田美喜
准教授・ジェイムズ・ティンク

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	2	7	0	0	9
11	0	3	1	0	4
12	3	1	0	0	4
13	1	0	0	0	1
14	1	0	0	0	1
15	0	0	0	0	0
計	7	11	1	1	19

*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	1	2	0	0	3
11	0	3	0	0	3
12	0	0	1	0	1
13	0	2	2	0	4
14	0	2	3	0	5
15	0	0	0	0	0
計	1	9	6	0	14

*2015年度は5月20日までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

- 鈴木淳 「崩れる「帝国の母」神話—ニューウーマン作家とハーディー」『ハー
ディ研究』（日本ハーディ協会）第36号、2010年9月.
- 鈴木淳 「後期イギリス帝国主義はスコットランドを文明化できるか—*The
Frozen Deep*における「千里眼」—」『日本英文学会第82回大会 Proceedings』
（日本英文学会）2010年10月.
- 小嶺智枝 “Early Modern English Controversy - The pamphlet wars in early modern
England,” 『武蔵野大学英米文学』第43巻 2011年3月.
- 鈴木淳 “Is Collins a “Conservative” or “Subversive” Novelist?: The Second Sight in
Wilkie Collins’s *The Frozen Deep* (1874)” 『東北工業大学紀要 II 人文社会科学
編』、第32号、89-100, 2011年3月.
- 鈴木淳 “Hardy’s Misogyny: Reading *Jude the Obscure* as his Response to New
Woman Fiction,” 『ハーディ研究』、第38号、2012年9月.
- 小嶺智枝 『書きたいことがパッと書ける英語表現集』（ペレ出版）2011年11
月.
- 芳野聡子、“Reappraisal of Thomas Hardy’s Earlier Novels” 『仙台白百合女子大学紀
要』第16号、47-66、2011年12月
- 小嶺智枝 “Motivated Scolding? A Study of Kate’s Shrewishness in William
Shakespeare’s *The Taming of the Shrew*,” *Shiron* 47 (2012):1-20.
- 原雅樹 「『万人の道』における語りの構造と進化科学的文脈におけるその含意
について」『試論』第47集、2012年7月、22-37.
- 芳野聡子 “The Tragic Inexorability of Hardy’s Logic in *The Return of the Native*”
『仙台白百合女子大学紀要』第17号、2012年12月、19-37.
- 芳野聡子 “The Tragedy of Michael Hencher in *The Mayor of Casterbridge*”
『仙台白百合女子大学紀要』第18号、9-22、2013年12月.
- 原雅樹 「彷徨う記号、リトル・ファーザー・タイム——鉄道線路上の *Jude the
Obscure*」『東北英文学研究』第4号、2014年1月、19-27.
- 原雅樹 “Writing Machine, Paper Money, and *The Mayor of Casterbridge*” 『試論』第
49集、2014年7月、1-18.

(2) 口頭発表

- 南部彰子 “Teachers' perceptions of team-teaching and its training,” 44th Annual
International IATEFL (International Association of Teachers of English as a
Foreign Language) Conference and Exhibition, 2010年4月.

鈴木淳「後期イギリス帝国主義はスコットランドを文明化できるか—*The Frozen Deep*における千里眼」, 日本英文学会第82回全国大会, 2010年5月30日.

小嶺智枝 “The Balance between Japanese teachers and ALTs in the Elementary School English Classes,” 2011年度 JALT Conference, 2010年12月.

鈴木淳「ハーディのミソジニー—ニューウーマン小説への反応として『ジュード』を読む—」 日本ハーディ協会第54回大会、2011年10月29日.

小嶺智枝 “On the film, *The Lost Weekend*,” アメリカ映画文化学会, 2011年11月.

小嶺智枝 “On the film, *Gentleman’s Agreement*,” アメリカ映画文化学会, 2012年3月.

原雅樹「ヘンチャードを忘却することを忘れてはいけない—ダブルバインドされた『キャスターブリッジの市長』」 日本英文学会東北支部第68回大会、2013年11月23日.

米澤光也「補完する読み手—エリオット詩に見る〈未完の構成〉」 日本T・S・エリオット協会第26回大会、2013年11月9日.

原雅樹「*Tess of the d’Urberville*における小説制度という運命」日本英文学会東北支部大会第69回大会 2014年11月29日.

米澤光也「T. S. エリオット詩におけるインデックスの詩学」日本英文学会東北支部大会第69回大会 2014年11月29日.

3 大学院生・学部生等の受賞状況

なし

4 日本学術振興会研究員採択状況

なし

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

10年度	学部	計1名	カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ合衆国)
12年度	学部	計1名	カリフォルニア大学バークリー校 (アメリカ合衆国)
13年度	学部	計1名	シェフィールド大学 (連合王国)

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	0	0	0
11	1	0	1
12	0	0	0
13	1	0	1
14	0	0	0
15	0	0	0
計	2	0	2

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	0	0	0

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

三枝和彦 北見工業大学准教授 2010年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

中高等学校教員 15名

出版社勤務 2名

8 客員研究員の受け入れ状況

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況

なし

10 刊行物

『試論』（1958年より年刊で刊行）

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

- 2010年度 トリスタン・コノリー氏（ウォータールー大学）講演会
クリストファー・ボード氏（ミュンヘン大学）講演会
- 2011年度 日本英文学会東北支部事務局
ピーター・キトスン氏（ダンディール大学）講演会
- 2012年度 日本英文学会東北支部事務局
ダイアン・ネグラ氏（ダブリン大学）講演会
- 2013年度 日本英文学会第85回全国大会（川内北キャンパスで開催）

12 専攻分野主催の研究会等活動状況

2010年度

- 東北大学・大阪大学・東北学院大学合同研究会（8月）
英詩の読書会（大学院生） 週1回
小説の読書会（大学院生） 隔月1回

2011年度

- 東北大学・大阪大学・東北学院大学合同研究会（8月）
小説の読書会（大学院生） 隔月1回

2012年度

- 東北大学・大阪大学・東北学院大学合同研究会（8月）
大学院生読書会 月1回程度

2013年度

- 東北大学・大阪大学・東北学院大学合同研究会（8月）
大学院生読書会 隔月1回程度

2014年度

- 東北大学・大阪大学・東北学院大学合同研究会（8月）
大学院生読書会 隔月1回程度

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

[研究活動]

研究室としての研究活動の具体的な成果としては、学術誌『試論』の刊行が挙げら

れる。50年を超える歴史をもつ査読付き学術雑誌として日本の英文学会でも高い評価を得ている『試論』は、「試論」英文学研究会が発行主体であり、英文学研究室が実質的活動拠点となっている。この学術誌は研究者に広く門戸を開放しており、とくに若手の研究者にとって研究成果発表のための重要な媒体となっている。

イギリス・ロマン主義文学・18世紀イギリス思想を専門とする大河内昌教授は、日本英文学会理事、日本英文学会大会準備委員長、イギリス・ロマン派学会編集委員会副委員長などを努め、学会に貢献している。岩田准教授はルネサンスから現代までのイギリス・アイルランド演劇を専門とし、論文発表・学会活動さらに翻訳等の多面的な活動で学界の注目を集め、名実ともに学会を牽引する中堅の研究者となっている。2010年度に本学に着任したジェイムズ・ティンク准教授は17世紀イギリス文学とイギリス・ルネサンス演劇を専門とする研究者であり、活発な研究活動と熱心な学生指導を行っている。

当専攻分野では、外部からの刺激を継続的に受けるために、毎年海外の専門家を招いて講演会を回開催している。ミュンヘン大学のクリストフ・ボード博士をはじめとして、優れた研究者が講演のみならず、大学院生のためのセミナーを行ってきた。2013年度には日本英文学会第85回大会を川内北キャンパスで開催し、全国の英文学研究者が仙台に集った。科学研究費補助金などの外部資金の導入もきわめて順調であり、全体的に見ると、研究活動はきわめて活発であったと言える。

[教育活動]

大学院生の指導の下に英詩読解を行わせる「詩のオリエンテーション」が毎年実施されてきた。3~4つのグループに分かれての発表会は例年3時間を超える熱のこもった内容となっている。3年次学生にとっても、指導する立場である大学院生にとっても、非常に高い教育効果をあげていると判断される。すでに40年以上の歴史をもつ卒業研究である「アサインメント」は、学生の読解力の養成という点で、大きな成果を上げている。年に1回実施される研修旅行では、外国人教師による講演、学会での研究発表リハーサル、アサインメント論文の中間発表など、多様なプログラムにより、学生・院生が相互に切磋琢磨している。また、大学院生が自主的に大阪大学・東北学院大学の英文科との合同研究会を毎年、企画・実施しており、おなじ分野を研究する他大学の学生との切磋琢磨の場となっている。これには教員も参加し、学生だけでなく教員の交流の場ともなっている。

大学院前期課程（修士課程）の学生の就職先としては、高等学校の英語教員や民間企業も多くなっている。今後は英語教師としての訓練も視野に入れた教育がますます

必要とされることから、それに応じた教育体制と内容の整備が必要と考えている。大学院後期課程（博士課程）では、社会人研究者コースで入学する現役研究者が多くなっている。これらの大学院生に対する教育体制は必ずしも十分であるとは言えない。今後は定期的な論文作成指導を実施するなどの対策が必要になると思われる。課程博士号授与件数は5年間で2名であった。しかしながら、その2名はともに社会人研究者コースに入学した現役研究者であり、前期課程からの進学者が少数であることは、若手研究者の育成という点で問題であると認識している。

PD 申請者についても十分な量の研究業績が必要とされるようになってきていると推定されるので、大学院生に対してはさらに積極的な論文発表を促したい。研究職に就職することができた大学院生は5年間で1名であるが、これは現在の就職状況の中ではいたしかたないと思われる。

Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015年5月20日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

大河内昌 「『フランケンシュタイン』と言語的崇高」『英文学研究』第88巻、2011年11月、1-18.

大河内昌 「『ユドルフォの謎』とピクチャレスクの主体—18世紀の風景美学とゴシック小説の空間表象」『揺るぎなき信念—イギリス・ロマン主義論集』新見肇子・鈴木雅之編（彩流社）2012年3月、121-136.

Okochi, Sho, “Law and Morality in the Sentimental Novel,” 『東北英文学研究』第3号（『英文学研究支部統合号』第5巻）（2012）1-10（51-60）.

大河内昌 「ヒューム、ゴドウィンと啓蒙のイデオロギー」『東北大学文学研究科研究年報』第63号、2014年3月1日、55-77.

大河内昌 「家庭小説の政治学」『東北大学文学研究科研究年報』第64号、2015年3月1日、185-203.

岩田美喜 「『お人好し』における感受性の経済効率」『東北英文学研究』第1号（『英文学研究支部統合号』第3巻）（2011）13-26（99-112）.

Iwata, Miki, “‘I’ll go romancing’: The Composite Nature of Storytelling in *The Playboy of the Western World*,” *Studies in English Literature* 52 (2011), 17-34.

岩田美喜 「W. B. イェイツ『煉獄』の執筆過程に見る混血恐怖」『東北大学文学研究科研究年報』第61号（2012）81-106.

岩田美喜 「『エピソード』における空間と身体」*Shakespeare News* 第52巻第1号

(2012) , 19-27.

岩田美喜「ベン・ジョンソン『新しい宿』における女性と脱衣」、『文化』第76巻3/4号(2013)、1-17.

IWATA, Miki, “‘Let us see what our painters have done for us’: Garrick and Sheridan on the Spectacularization of Drury Lane,” *Studies in English Literature* 55 (2014): 19-38.

岩田美喜「舞台に現れた死者たち——初期近代イングランド演劇に見る〈幻想〉の萌芽」、東雅夫編『幻想と怪奇の英文学』(春風社、2014)、131-59.

岩田美喜「アイルランド文芸復興輪——アイルランド人のためのアイルランド文学を目指して」、木村正俊編『アイルランド文学 その伝統と遺産』(開文社、2014)、157-73.

岩田美喜「人類みな兄弟じゃないのかよ——ファーカーとシェリダンの戯曲に見る弟たちの変遷」、日本ジョンソン協会編『十八世紀イギリス文学研究第五集 共鳴する言葉と世界』(開拓社、2014)、75-93.

IWATA, Miki, “Modern Japanese Helenas in a Metropolitan Courtyard,” *Shakespeare Review* 50: 5 (2014): 861-79.

岩田美喜『それ以上の詮索はおやめなさい』——『放浪者メルモス』における、〈書くこと〉への両義的欲望」、福士航ほか『フィクションのポリティクス』(英宝社、2015)、67-107.

Tink, James, 'The Futurity of Andrew Marvell: The Figure of the Future in Marvell's Lyric Poetry'. *Shiron* 46 (October 2011). 1-24.

Tink, James, “Active and Contemplative Labour in *The Tempest*” 『シェイクスピア・プリズム—英国ルネサンスから現代へ』(金星堂)2013年3月, pp. 76-88.

Tink, James, “Reading *Timon of Athens* in the Downturn” *Shakespeare in Global/Local Contexts: The International Shakespeare Conference at Seoul 2013*. Seoul: The Shakespeare Association of Korea. (2013), 264-72.

Tink, James, “Staging *Timon of Athens* in the Downturn.” *Shakespeare Review*. 50. No. 5 (2014). 155-70.

Tink, James, “Translating Transcendence: R.H. Blyth, Zen and English Poetry.” *The Annual Reports of The Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University*. Vol. 64 (2014). 200-217.

市橋孝道「『ヴァージニアの人々』にみるイングリッシュネス—“ジャーマニズム”との対照において—」『英米文学の可能性 玉井暁教授退官記念論文集』

(英宝社) pp. 413-423, 2010 年.

1-2 著書・編著

下楠昌哉 (監修), 岩田美喜他 (編) 『イギリス文化入門』, 三修社, 2010.

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

(1) 翻訳

大河内昌、エドモンド・バーク 『崇高と美の起源』(『英国十八世紀文学叢書4』所収)
(研究社)2012年3月.

大河内昌、フレドリク・ジェイムソン 『アドルノー後期マルクス主義と弁証法』(論創社)
2013年3月 (加藤雅之・箭川修・齋藤靖と共訳、155-231を担当)

大河内昌、ジョージ・スタイナー『むずかしさについて』(みすず書房)2014年9月 (加藤雅之・岩田美喜と共訳、79-136, 193-227を担当).

岩田美喜、ジョージ・スタイナー『むずかしさについて』(みすず書房)2014年9月 (加藤雅之・大河内昌と共訳、5-77を担当).

(2) 書評

岩田美喜、風呂本武敏編 『アイルランド・ケルト文化を学ぶ人のために』(世界思想社,
2009年) [Toshi Furomoto, ed., *For Those Who Study Irish/Celtic Culture*,
Sekai-Shiso-Sha, 2009] *Journal of Irish Studies* 25 (2010) .

岩田美喜、Thomas M. Curley, *Samuel Johnson, the Ossian Fraud, and the Celtic Revival in Great Britain and Ireland* (Cambridge UP, 2009) 『日本ジョンソン協会年報』, 第35号, 2011年.

岩田美喜、池田寛子 『イエイツとアイリッシュ・フォークロアの世界——物語と歴史の交わる場所』(彩流社, 2011年) 『イエイツ研究』, 第43号, 2012年. 77-80頁.

岩田美喜、楠明子 『メアリ・シドニー・ロウス——シェイクスピアに挑んだ女性』(みすず書房, 2011年) 『英文学研究』, 第89巻, 2012年, 60-65頁.

岩田美喜、岡室美奈子・川島健・長島確編『サミュエル・ベケット! --これからの批評』(水声社, 2012年)、『英文学研究』第91巻、83-86頁.

(3) 解説

大河内昌 「訳者解題」、エドモンド・バーク『崇高と美の起源』(『英国十八世紀文学叢書4』所収) (研究社)2012年3月、336-341.

大河内昌 「訳者解題」、フレドリック・ジェイムソン『アドルノ—後期マルクス主義と弁証法』(論創社)2013年3月、320-328.

Tink, James, "Performance Review: Christopher Marlowe, *Edward II*." *Shakespeare Studies*. Vol.52 (2014). 42-5.

Tink, James, "Teaching the History Plays in Japan." *Teaching Shakespeare. Journal of the British Shakespeare Association* 6 (Autumn 2014). 12-13.

岩田美喜 「誰が殺した、デズデモーナを?」, 正村俊之・編『生と死への問い』(人文社会科学講演シリーズV), 東北大学出版会, 2011年. 103-135.

岩田美喜 「阿部次郎記念賞を通して見た高校生の作文力」「書く力」を伸ばす—高大接続における取組みと課題—』東北大学高等教育開発推進センター編、(東北大学出版会、2014)、37-64.

岩田美喜 「18世紀演劇」「オリヴァー・ゴールドスミス」「R. B. シェリダン」、『イギリス文学入門』石塚久郎編(三修社、2012)97-99, 122-23 & 126-27.

岩田美喜「ジョン・オキーフ『若気の至り』に見る貴種流離譚の一形態としての〈旅芸人〉」『日本ジョンソン協会年報』第38号(2014)、1-4.

1-4 口頭発表

(1) 国際学会

IWATA, Miki, 'Magnificent Seven Shakespeares: Inventing Shakespeare's Biography as Manga', Taiwan National University, Taipei, 25 November 2011.

IWATA, Miki, 'A Macbeth Playing Baseball: Shakespeare Adopted into Japanese Crime Fiction after 3.11'. Paper presented to panel session 'Shakespeare, Myth and Asia', the European Shakespeare Research Association, Montpellier 27-30 June 2013.

IWATA, Miki, 'Modern Japanese Helenas in a Metropolitan Courtyard', Shakespeare in Global / Local Contexts (the Shakespeare Association of Korea), Seoul National University, Seoul, November 2013.

IWATA, Miki, 'A Sci-Fi Manga Meets the Bard: Shakespearean Moments in *Cyborg 009* and Its Adaptations', Shakespearean Journeys (Asian Shakespeare Association), National Taiwan University, Taipei, May 2014.

Tink, James, "Strangers, Citizens and Saints: International Relations and Tudor Identities in Shakespeare's *King Henry VIII*". Paper presented to panel session 'Shakespeare's Histories and International Relations', 9th World Shakespeare Congress 2011, Charles University, Prague, Czech Republic, July 2011.

- Tink, James, "Zen Shakespeare: Buddhism, Japan and English Shakespeare Criticism."
Paper presented to panel session "Shakespeare, Myth and Asia", the European Shakespeare Research Association, Montpellier 27-30 June 2013.
- Tink, James, "Reading *Timon of Athens* in the Downturn." Shakespeare in Global/Local Context: The Shakespeare Association of Korea. Seoul National University, 1-2 November 2013
- Tink, James, "Holding On: The Pieties of Kazuo Ishiguro's *Never Let Me Go*." Presentation at American Comparative Literature Association, Annual Meeting 2014, New York University, NYC, US. 20-23 March 2014.
- Tink, James, "Ariel's Journey: *The Tempest*, Labour and Transformation." Asian Shakespeare Association, National Taiwan University, Taipei, Taiwan. 15-18 May 2014.
- Tink, James, "Industrious Servants: Perceptions of Labour in *The Tempest*." Australia and New Zealand Shakespeare Association Biannual Conference, University of Southern Queensland, Toowoomba, Australia. 2014 October 1-4.
- Tink, James, "Approaching Animals in Nicola Barker's *In the Approaches*." American Comparative Literature Association Annual Conference 2015, Seattle Conference Centre, Seattle WA, USA. 2015 March 25-29.

(2) 国内学会

- 大河内昌 「ワーズワスにおける田舎、都会、子供」 (東北ロマン主義研究会第2回大会シンポジウム「都会・田舎・子供」、2013年7月20日)
- 大河内昌 「家庭小説の政治学—リチャードソンからギャスケルまで」 (日本ギャスケル協会第26回例会特別講演 2014年6月7日)
- 岩田美喜 「『谷間の蔭』のジェンダー・ポリティックス」 (日本イェイツ協会第46回大会口頭発表), 2010年9月25日.
- 岩田美喜 「シェリダン演劇のスペクタクル性」 (日本英文学会第83回大会シンポジウム第一部門), 2011年5月21日.
- 岩田美喜 「ヴィクトリア朝の風刺画にみるアイルランド人表象とゴシック・イメージ」 (日本英文学会東北支部第66回大会シンポジウム英文学部門), 2011年11月26日.
- 岩田美喜 「今、英文学をどう教えるか」 (日本英文学会北海道支部第57回大会シ

ンポジア英文学部門) , 2012年9月30日.

岩田美喜「『真面目が肝心』の〈くだらなさ〉を真面目に考える」(日本ワイルド協会第37回大会シンポジウム「ワイルドと世紀末演劇的ヴィジョン——サロメ、悲劇、喜劇」) , 2012年12月1日.

岩田美喜「負の遺産を語り継ぐ—不在地主としての放浪者メルモス」、日本英文学会東北支部第68回大会シンポジウム英文学部門、2013年11月24日、東北工業大学

岩田美喜「男尊女卑のDV男か、犬も食わない痴話喧嘩か——G. B. ショー『ピグマリオン』を読み、『マイ・フェア・レディ』を見る」、日本英文学会東北支部第68回大会特別シンポジウム、2013年11月24日、東北工業大学市橋孝道「*Vanity Fair*と*Bleak House*—Exhibition Cultureへの批判的パロディーとして」日本英文学会関西支部第5回大会、2010年12月18日.

Tink, James, “Don’t Look Back in Anger: The Postwar in Kazuo Ishiguro’s *Never Let Me Go*.” (日本英文学会東北支部第64回年次大会口頭発表) , 2013年11月23日.

2 教員の受賞歴 (2010~2015年5月20日)

岩田美喜、平成22年度 青葉文学賞(青葉文学賞委員会)、対象論文: “The Stage-Irishman’s Stratagem: George Farquhar and the Emergence of the Smock Alley School,” *Studies in English Literature* 50 (2009).

岩田美喜、平成23年度 東北英文学ベストエッセイ賞(日本英文学会東北支部)、対象論文: 「『お人好し』における感受性の経済効率」『東北英文学研究』第1号、2011年1月.

大河内昌、平成23年度 日本英文学会優秀論文賞(日本英文学会)、対象論文: 「『フランケンシュタイン』と言語的崇高」『英文学研究』第88巻、2011年11月.

IV 教員による競争的資金獲得 (2010~2015年度)

(1) 科学研究費補助金

平成22-24年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「感傷主義の射程」大河内昌(研究代表者)、2,590,000円(3年間総額)

平成22-25年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「18世紀演劇の非標準英語使用を通じた他者表象の文化研究」岩田美喜(研究代表者)、3,300,000円(4

年間総額)

平成 25-27 年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「デイヴィッド・ヒュームと
18 世紀英文学」大河内昌（研究代表者）、3,120,000 円（3 年間総額）

平成 26-28 年 科学研究費補助金「基盤研究(C)」 「〈長い 18 世紀〉の英語演劇
における兄弟像の社会・政治的研究」岩田美喜（研究代表者）、3,300,000
円（3 年間総額）

(2) その他

なし

V 教員による社会貢献（2010～2015 年 5 月 20 日）

大河内昌

高校出張講義（宮城県立二華高等学校）（2010 年）

高校出張講義（福島県立安積高等学校）（2011 年）

高校出張講義（宮城県立白石高等学校）（2012 年）

公開講座（みやぎ県民大学）（2012 年）

高校出張講義（岩手県立盛岡第四高等学校）（2013 年）

岩田美喜

公開講座（有備館講座）（2012 年）

公開講座（リベラルアーツサロン）（2013 年）

高校出張講義（山形県立新庄北高等学校）（2013 年）

公開講座（有備館講座）（2014 年）

ジェイムズ・ティンク

高校出張講義（宮城県立佐沼高等学校）（2014 年）

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015 年度）

大河内昌

日本英文学会評議員（2010 年度）

日本英文学会理事（2011 年度～2012 年度）

日本英文学会大会準備委員会副委員長（2010 年度）

日本英文学会大会準備委員会委員長（2011 年度）

日本英文学会東北支部理事（2011年度～）
日本英文学会編集委員会委員（2015年度～）
日本英文学会東北支部 支部長（2011年度～2012年度）
日本英文学会東北支部 副支部長（2015年度～）
イギリス・ロマン派学会理事（2005年度～）
イギリス・ロマン派学会企画運営委員（2010年度～2012年度）
イギリス・ロマン派学会編集委員会委員（2013年度）
イギリス・ロマン派学会編集委員会副委員長（2014年度～）

岩田美喜

日本イエイツ協会役員（2007年度～）
日本イエイツ協会編集委員（2011年度～2012年度）
日本英文学会東北支部理事（2011年度～）
日本英文学会東北支部事務局長（2011年度～2012年度）
日本英文学会事務局大会準備書記（2012年度）
日本シェイクスピア協会委員（2013年度～）
日本ジョンソン協会論集編集委員会委員長（2015年度～）

VII 教員の教育活動

(1) 学内授業担当（2015年度）

1 大学院授業担当

大河内昌 教授

1 学期 英文学特論 批評理論(1)
2 学期 英文学特論 批評理論(2)
通年 課題研究（英文学）（岩田准教授・ティンク准教授と共同）

岩田美喜 准教授

2 学期 英語文化論特論 II *As You Like It* 精読
通年 課題研究（英文学）（大河内教授・ティンク准教授と共同）

ジェイムズ・ティンク准教授

1 学期 英文学研究演習 I Milton, Shorter Poems
1 学期 英文学研究演習 III Academic Writing Skills
2 学期 英文学研究演習 II Elegies in English Poetry 1800-2000
2 学期 英文学研究演習 IV Academic Writing Skills
通年 課題研究（英文学）（大河内教授・岩田准教授と共同）

箭川修 講師（非常勤講師・東北学院大学）

2 学期 英語文化論各論 II マイケル・ドレイトンの詩を通じてルネサンス
を読む

丹治愛 講師（非常勤講師・法政大学）

集中 (2) 英文学特論 III イギリス小説とナショナル・アイデンティティー

2 学部授業担当

大河内昌 教授

3 セメスター 英文学基礎講読 I Truman Capote, *Breakfast at Tiffany's*

4 セメスター 英文学基礎講読 II John Keats の詩を読む

4 セメスター 英文学概論 イギリス小説入門

5 セメスター 英文学演習 I Kazuo Ishiguro, *A Pale View of Hills*

6 セメスター 英文学演習 II Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray*

5 セメスター 英語文化論各論 18 世紀イギリス思想

岩田美喜 准教授

4 セメスター 英文学概論 イギリス演劇入門

6 セメスター 英文学各論 ヴィクトリア朝メロドラマと〈近代〉

ジェイムズ・ティンク 准教授

3 セメスター 英文学・英語学基礎講読 I Modern British Short Stories

4 セメスター 英文学・英語学基礎講読 II Shakespeare, *The Winter's Tale*

5 セメスター 英文学演習 III Shakespeare, *As You Like It* & Elizabethan

Pastoral

6 セメスター 英文学講読 Elizabeth Bowen, *The Heart of the Day* & British

Literature during World War II

箭川修 講師（非常勤講師・東北学院大学）

5 セメスター 英文学各論 マイケル・ドレイトンの詩を通じてルネサンス
を読む

丹治愛 講師（非常勤講師・法政大学）

集中 (2) 英文学各論 イギリス小説とナショナル・アイデンティティー

3 共通科目・全学科目授業担当

ジェイムズ・ティンク 准教授

全学共通科目

3 セメスター 英語 C

4 セメスター 英語 C

(2) 他大学への出講 (2010～2015 年度)

大河内昌 教授

大阪大学・文学部／文学研究科 (2010 年度)

岩田美喜 准教授

東北学院大学・文学部 (2010 年度)

東北学院大学・文学部 (2011 年度)

放送大学 (2011 年度)

大阪大学・文学部／文学研究科 (2011 年度)

東北学院大学・文学部 (2012 年度)

放送大学 (2012 年度)

東北学院大学・文学部 (2013 年度)

大阪大学・文学部／文学研究科 (2013 年度)

東北学院大学・文学部 (2014 年度)

京都大学・文学部／文学研究科 (2014 年度)

東北学院大学・文学部 (2015 年度)

ジェイムズ・ティンク 准教授

京都大学・文学部／文学研究科 (2011 年度)

茨城大学・人文学部 (2013 年度)